川崎市長賞

スポーツトレーナーになる

栗木台小学校　６年生　加藤　桜歩

「NEC レッドロケッツ川崎のスポーツトレーナーになり、チームの縁の下の力持ちになりたい。選手たちと一緒にチームをもり上げたい。」

これが私の将来の夢です。

五年生の春、友達からバレーボールをやってみないかと誘われました。スポーツの中で一番バレーボールに興味を持っていたので、バレーボールチームに入部することに決めました。練習は体験の時よりも厳しく、初めの頃は体のあちらこちらが痛くなりました。でも続けているうちに慣れ、レシーブをきれいに上げられるようになって絶対に試合に出るぞという気持ちが強くなりました。試合で、相手チームが取れないような強いサーブを打ったり、相手の強いサーブやアタックをレシーブしてトスにつなげられたりした時、心の底から喜びがわき上がってきます。点を取った時、チームメイトと円をつくり、飛行機みたいにくるくる走り回り、

「ようし。」

と大きな声で言う瞬間が最高です。まだ失敗することもたくさんありますが、できなかったとへこまず、これからもバレーボールの練習をがんばっていきます。

バレーボールがもっと上手になりたいという気持ちがだんだんと強くなってきたある日、川崎市にあるプロのバレーボールチーム「NEC レッドロケッツ川崎」の試合を見に行きました。レッドロケッツ川崎の選手たちは、勝つために全員で協力してサーブやアタック、ブロックで点を取っていました。できないところがあればタイムを取り、監督や選手たちで話し合ってすぐに修正をし、勝利をつかみ取っていました。そんな選手たちから目がはなせませんでした。また、話し合っている間にスポーツトレーナーの人たちが、試合でつかれている選手に飲み物を渡したり、首などの場所に冷たい物を当てて冷やしているのに気付きました。スポーツトレーナーは、選手たちに声をかけ、アドバイスをしているようでした。その様子を見て、スポーツトレーナーは選手たちにとってなくてはならない存在であり、その人たちのおかげで選手たちは一生けん命がんばって戦うことができるのだと実感しました。そのけんしん的な姿に心がひかれました。選手たちが試合で全力を出せるように体や心のメンテナンスをしたり、ケガで困っている選手のサポートをしたりするバレーボールのスポーツトレーナーになりたいと思いました。

私が人の役に立つことをしたいと考えるようになったのは、四年生の総合で福祉の学習をしたことがきっかけでした。困っている人を助けている人達の存在を知り、私も周りの人を助けられる人になりたいと思いました。自分でもできることを見つけ、そっ先してやろうと考えました。先日はタイヤとびで落ちた一年生に、

「大丈夫。」
と聞いて 保健室につれていってあげました。不安そうだった一年生に声をかけると少し安心したようでした。手助けすることができ、私も人の役に立ててうれしかったです。人を助けることで、助けられた人も助けた人もいい気持ちになりうれしくなるので、すてきだなと思いました。
　将来どんなことで人の役に立てるのか考えたとき、NEC レッドロケッツのスポーツトレーナーのことが頭にうかびました。バレーボールは、いつどの瞬間に選手たちがケガをするか分かりません。だからこそ選手たちを常にサポートし、ケガをしたときにすぐに手当てをすることが必要です。少しでも早くケガを治し、また試合に出られるようにすることができるようサポートする仕事がしたいです。「NEC レッドロケッツ川崎」のスポーツトレーナーとして選手たちを支え、もり上げることで川崎市をスポーツのさかんな元気のある明るい街にしていきたいです。